

1. 題材について

小学部星組では、隔週 1 回、「図画工作」の授業を設定している。学習指導要領の「図画工作」の目標だけでなく、小学部の教育（3）「興味や関心をひろげ、自分から行動したり、選んだりできる。」や（5）「感じたことを豊かに表現し、楽しく生活することができる。」という部分にも重点を置いている。

対象児童は、小学部低学年 6 名である。手先が器用な児童、手元を見ることが課題の児童、手指の巧緻性の向上を目指している児童など実態は様々である。

「図画工作」の活動は、自発的に表現しようとする気持ちを引き出すために他教科等と関連付けた活動内容・題材を設定することを大切にしている。本時では、前期に児童が好きだった絵本『やきそばばんばん』、「調理」で作ったやきそばを題材とした活動を設定した。また、若竹まつりでは昼食にやきそばを食べていた児童も多く、やきそばをイメージしやすいと考えた。

制作の流れは、バンダナを着ける→やきそばの具材を選ぶ→具材をフライパンに入れる→混ぜる→盛り付けるといように流れを明確で分かりやすくすることで、主体的に取り組む姿を引き出したい。また、友達を手掛かりとして一人ずつ取り組む等、協働的な学びを深めていきたいと考えた。

2. 題材の目標

○道具（セロハンテープやトングなど）の扱いになれる。【知識・技能】

○材料を自ら選び、制作に取り組む。【思考力・判断力・表現力等】

○発表者に注目し、拍手やハイタッチなどで称賛する。【学びに向かう力・人間性等】

3. 指導計画（全 1 時間）

実施日	時間数	学習活動	指導内容
11/27 (本時)	1h	やきそばを表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具の扱いに慣れる。 ・自分なりにイメージをもって制作活動に取り組む。

4. 小学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントとの関連について

①「見通しと期待を持って授業に取り組める工夫⇒ポイント（3）ア、イ ⇒児童像 C、D

「学級」の時間に『やきそばばんばん』の絵本の読み聞かせをしたり、「国語・算数」で野菜のマッチングゲームをしたり、調理でやきそばを作ったりすることで、一人ひとりがやきそばのイメージをもてるようにした。また、絵本や調理のように順番に具材を入れる活動や混ぜる活動を取り入れることで、自分が見たことがある・体験したことがあるということに気付き主体的に取り組めるようにする。

②友達を手掛かりとする工夫⇒ポイント（2）オ、ポイント（5）イ、ポイント（6）カ ⇒児童像 A

導入場面で教員が本時の活動の手本を見せるだけでなく、上級生から活動を行うことで「やってみたい」という気持ちを高め、より主体的に活動に取り組めるようにする。また、材料や活動場所の配置を明確にし、自分から進んで活動に取り組めるようにする。

③児童の反応・状態に応じての工夫⇒ポイント（10）イ、（11）イ、（12）カ、キ ⇒児童像 F、H

絵本や「調理」の経験があるため、本時の「図画工作」でも完成する作品が本物に近くなるように、麺を毛糸にしたりキャベツやもやしを花紙にしたり、ステーキやエビ・イカを教員が紙粘土で作ったものにしたりした。また、児童たちが見たこと・体験したことがあるという気持ちになるように、やきそばをイメージしながら活動ができるように、フライパンを本物のように作ったり、ヘラ、トングは実物を使ったりした。ヘラやトングの扱い方は、細かく指導せずに友達を手掛かりとして自分で扱ってみるということに重きを置き、手指の巧緻性や目と手の協応の実態で難しそうな場面では支援を行った。



5. 本時の目標

- 教員の手本や友達がやっていることを手掛かりとして、自ら材料を選ぶ。【思考力・判断力・表現力等】
- 拍手やハイタッチ、言葉掛けなどで発表者を称賛する。【学びに向かう力・人間性等】

6. 授業の展開

学習活動	指導内容	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○着席する。 ○始めの挨拶をする。 ○絵本『やきそば ばんばん』を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スモックを着て着席する。 ○OMT に注目し、挨拶をする。 ○絵本に注目し、やきそばを作っていることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて、支援を行う。 ○OST は児童が MT に注目するように言葉掛けを行う。 ○絵本が見えるように読み聞かせを行う。【ポイント（3）イ】
<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動を知る。 ○教員の手本を見る。 ○順番に制作する（流れは6人とも同じ）。 <ol style="list-style-type: none"> ①トレイを取る。 ②麺を取ってトレイにのせる。 ③キャベツかもやしを選び、取る（トレイにのせる）。 ④ステーキかエビ・イカを選び、取る（トレイにのせる）。 ⑤フライパンに選んだ材料を入れる。 ⑥曲がかかっている間、ヘラで混ぜる。 ⑦曲が止まったら、 Tongue で材料を容器に移す。 ⑧出来上がったら発表する（みんなに見せる）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○やきそばを作ることが分かる。 ○教員の手本に注目し、活動に見通しをもつ。 ○教員の手本や友達が活動している様子を手掛かりに活動する。 ○基本的に児童 F 児→D 児→B 児→※E 児→C 児→A 児の順。ただし、E 児は自ら「やる」と発信したタイミングで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時で制作するものを質問する。 ○材料等は隠しておき、少しずつ見せて児童たちの期待感を高める。【ポイント（5）イ、（11）イ】 ○児童の実態によって、何を作るのか確認したり、手元を見るように言葉掛けを行ったりする。【ポイント（11）イ、（12）カ、キ】 ○どのような材料を選んだか見ている児童に発問する。【ポイント（2）オ、（6）カ、（10）イ、（11）イ】
<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りを行う。 ○終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○何を作ったのか答える。 ○OMT に注目し、挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○B 児、D 児、F 児に作ったものを聞く。 ○OMT は、児童が MT に注目していることを確認して進行する。

7. まとめ・考察

導入時の絵本は「学級」や休み時間に何度か読んでいるが、本時でもほとんどの児童が集中して見ていた。絵本を読み終えた後、「何作っていたかな」と発問すると、ほとんどの児童が「やきそば」と答えたり、表紙のやきそばの絵を指差ししたりしていた。また、『図画工作』でも、やきそばを作ろうと伝えたと、児童の中には「調理」でやきそばを作ったことを思い出したのか笑顔が見られたり、期待感をもったりしている児童もいた。

学級全体で友達の様子を見る意識が高まっているため、教員の手本から活動内容を理解するだけでなく、友達を手掛かりに活動に取り組む姿勢が育ってきていた。そこで、本時では上級生から順番に活動を行うことで、友達を手掛かりに見通しをもって、主体的に活動に取り組むことができた児童が多かった。また、「自分もやってみたい」という気持ちが高まり、友達の様子をよく見ることもつながっていた。自分の番がくると、教員の支援がほとんどなくても自ら材料や道具に手を伸ばし、活動する様子が見られた。このように、友達同士を手掛かりにする活動内容を展開することで、児童の興味・関心や活動への期待感が高めることができると感じた。

活動では、材料等の配置や流れを工夫したり、児童が集中できるように言葉掛けや支援を最小限にしたりした。普段「次、これ？」と教員に確認が多い児童が確認をほぼせず自分で活動を行っていた。また、多くの児童が作品を完成させると、自ら友達に「みてみて」と伝えている姿が見られた。このように、活動の流れを明確にしたり、集中して取り組める環境を整えたりすることで、「できた」ときの達成感をより経験しやすくなった。また、「できた」という気持ちを友達や教員に共有したくなるような雰囲気づくりを行ったり、完成させた後に友達にも見てもらう時間を十分に確保したりすることで、児童が自分から称賛を求める姿や自信をもって取り組む姿につながった。